

介護福祉士養成教育における教育内容のあり方に関する研究 生活支援技術の科目から

新潟医療福祉大学 社会福祉学科
星 紀恵子

【はじめに】

今年度の介護福祉士養成施設の入学生より、新カリキュラムが適用となった。今回のカリキュラムの改正は、質の高い人材育成という社会的使命を受け、さまざまな変更が行われた。教育体系を「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域に再編し、授業時間数も1,650時間以上から1,800時間以上に増えた。また、他にも大規模な教育内容の再編や統合などが行われた。

【目的】

このような状況のなか、厚生労働省が指定する科目の「生活支援技術」に焦点をあて、その教育内容のあり方に関する研究を行う。

【方法】

厚生労働省が示している「生活支援技術」の教育に含むべき事項を踏まえた上で、旧カリキュラムとの比較検討を行う。また実際の授業内容については、教育の視点から学生の授業感想レポートや、普段の授業の関わりの中から考察していく。

【結果】

1) 旧カリキュラムと新カリキュラムの比較

2009年度から始まった新カリキュラムで厚生労働省が示している「生活支援技術」の教育に含むべき事項等を表1に示した。基本的に、この10項目を300時間で行うことになるが、これは他の領域の科目の時間数と比較して最も多い。介護福祉士が学ぶべき重要な内容が含まれていると考えられ、この科目の運用が介護福祉士の質を決めるといっても過言ではない。旧カリキュラムでいえば、「介護技術」や「形態別介護技術」に相当するものが殆どである。旧カリキュラムの介護技術では「コミュニケーションの技法並びに住宅設備機器及び福祉用具の活用法を含むこと」、形態別介護技術では「知的障害者及び精神障害者の介護並びに居宅における介護に関する事を含むこと」と備考に記載されていることが特徴的であったが、新カリキュラムと旧カリキュラムの比較で留意しておかなければならないことは、旧カリキュラムの「介護技術」に含まれていたコミュニケーションが特化しており、コミュニケーションの重要性が窺える。

2) 教育の視点から

学生のレポートから読み取れたことは、授業の方法と内容の2点に大別できる。授業の方法では、2コマ続きで授業が受けやすかったことや介護技術は繰り返し行うことが大切だ、などの意見が多く、授業の内容については、高齢者や障がい者の疑似体験が大変貴重な学びになっていることがわかった。それを行うことによって利用者の立場に立つ考え方が培われ

表1 新カリキュラム「介護」の領域の教育内容等

領域	教育内容	時間数	教育に含むべき事項
介護の基本		180	介護福祉士を取り巻く状況
			介護福祉士の役割と機能を支える仕組み
			尊厳を支える介護
			自立に向けた介護
			介護を必要とする人の理解
			介護サービス
			介護実践における連携
			介護従事者の倫理
			介護における安全の確保とリスクマネジメント
			介護従事者の安全
コミュニケーション技術		60	介護におけるコミュニケーションの基本
			介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション
			介護におけるチームのコミュニケーション
生活支援技術		300	生活支援
			自立に向けた居住環境の整備
			自立に向けた身じたくの介護
			自立に向けた移動の介護
			自立に向けた食事の介護
			自立に向けた入浴・清潔保持の介護
			自立に向けた排泄の介護
			自立に向けた家事の介護
			自立に向けた睡眠の介護
			終末期の介護
介護過程		150	介護過程の意義
			介護過程の展開
			介護過程の実践的展開
			介護過程とチームアプローチ
介護総合演習		120	
介護実習		450	
小計		1260	

ていたのである。また、移動や移乗、食事の介助等を体験することで、支援内容に合わせたコミュニケーションの大切さと難しさを実感している。さらに、介護されているという気持ちが薄れるような介護を目指したい、やさしい人になりたいなどという感想も聞かれた。

【考察】

新カリキュラムでは、「各養成施設等は、基準において示された『生活支援技術』、『介護過程』等の教育内容ごとに、その裁量で科目編成を行うことができるようになった。ただ、その条件として、「基準で示された『教育に含むべき事項』の項目が、個々の科目の授業計画案に記載されていること」となっている。このことをいかに活かすかが、今回の介護福祉士養成カリキュラムのポイントとなる。特に、この「生活支援技術」の科目ではそのことがいえる。

授業の方法や内容については、介護実習を意識する内容を取り入れることや、演習ということ踏まえ2コマ続きの授業の設定をすること、さらに基本的で重要な技術については短い時間でも毎回行うことが有効と思われる。学生に利用者の立場の考え方をいかにして持ってもらうことも重要な点であり、ただ単に、利用者役を行うだけではなく、さまざまな場面を通じてそれを伝えていくことや、疑似体験の有効性を活かしていくことが重要である。また、当事者と語る場面や一緒に行動する場面の設定などを考えていくことも必要なのではないか。

【参考文献】

川延宗之編『介護教育方法論』弘文堂 2008